

【学 年】 高等部3年生

【身体面】 脳性麻痺・水頭症・未熟児網膜症：車イス移動が基本で歩行器や三輪車を使った活動を行っている。視力はかすかに光を感じる程度である。感覚過敏があり、身体に触れられたり、何かに触れたりすることに抵抗を示す場合がある。

【生徒の様子】 アセスメントに基づく認知課題学習を少しずつ前に進める中で、時折課題に対して前向きに取り組めなかったり、教材を床に落としてその音を楽しんでしまったりする傾向がある。また、利き腕の右手だけで教材に触れようとする傾向が強く、左手を使って右手の動きをフォローすることが大きな課題の一つであったが、2学期後半から左手の動きも見られるようになってきた。

【指導について】 例えばトレイに入った大豆を一粒ずつ指でつまんで別の容器に入れる取組では、大豆が滑らないように滑り止めマットを敷く等、教材を難易度の違う別の物に変えるのではなく、すでに取り組んでいる教材の幅を広げる工夫をしてきた。また、右手だけの活動にならないように、常に左手を添える指導や支援を継続してきた。

○作業療法士（OT）への相談内容

指を滑らさずに大豆をつかむ等、手指の動きの向上を目指す工夫

○視覚支援の先生への相談内容

右手だけではなく左手を効果的に使うための工夫

◎アドバイス

(OT)・滑らないように容器の底にマットを敷く

・しっかり掴む、大きなものを持ち上げる教材の工夫をすると細かい指先の動きにつながる

(視覚支援)・すべての教材へのアプローチに対して、常に左手も触れる習慣をつける

トレイの中にある5つの大豆を指でつかんで別の容器に移す。トレイのふちを滑らせてつかもうとする。



コップを重ねる学習。プラスチックの場合、床に落としてその音を楽しむ傾向がある。



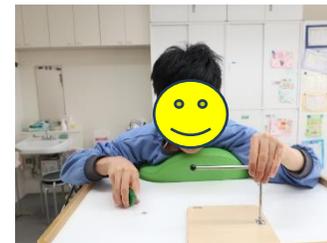
常に両手で学ぶことを継続したことで、かなり左手で右手の動きをフォローすることができるようになった。



トレイに滑り止めのマットを敷いて挑戦すると、うまく3本の指でつかむことができた。



紙のコップに変えると落とす行為は激減したが、つい力を加えすぎてコップがつぶれてしまうことがあったのでさらに工夫が必要である。



●成果：取り組む教材の幅を広げることによって、できていることがより確実にできるようになった。また、左手を使おうとする意識が高くなったことも、課題克服に向けてのステップアップにつながっていると思われる。教材を落としてしまう傾向も減少してきた。

●今後の課題：取り組むべき内容について、やってみようとする気持ちや意欲が安定するような支援の継続が必要である。左手の動きについては、右手のフォローがかなりできるようになってきたので、今後はさらに動きの幅を広げて、両手を同時に使って取り組む課題の設定や教材の工夫が求められる。